つるし柿作り

↑利用者さんが皮をむき、ネットに入れデイの軒下に干しています。

Clover Newsletter

クローバーだより

2026年 11月号

秋のクローバーデイ

秋のデイサービスはイベントが盛りだくさん。室内では紫蘇の実とり（その後、佃煮にして皆で食べました）から始まり、つるし柿づくりをしてもらったり、大正琴や、味夢バンドによるコンサートも開催。秋祭りの見学や、菊花展なども楽しみました。

10 月 6 日（水）には、秋篠宮家、佳子様が京丹波町にお越しになり、丹波自然運動公園を訪れていたデイサービス利用者に通り過ぎる車の中から姿を見せ、手を振ってくださいました。

佳子様、京丹波来訪

丹波自然運動公園

大正琴演奏会

味夢バンドコンサート

紫蘇の実とり

NPO 法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪桧山 53

■TEL（0771)88-5014 / ■FAX（0771)88-5017

■e-mail: info@cloverservice.or.jp

■ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.cloverservice.or.jp

クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪桧山 41-1

■TEL & FAX （0771)88-0138

■e-mail: day@cloverservice.or.jp

facebook QR

認知症の祖母と共に過ごした日々を振り返る「介護記」
【写真は、祖父と祖母（1990年代）】

塩田吉之（しおたよしゆき） クローバー・サービス職員

カバン作りと、消えた針

針仕事（縫い物）をはじめてから、祖母の一日の過ごし方が変わり始めた。何を縫っているのかと見ていたら、最初はカバン作りだった。持ち手も生地を筒にして裏返して作り、裏地もつけてちゃんとしたカバンに仕上がっていた。『まだこんなことできるんや！』と驚き、『おばあさんすごいやん！』と僕は褒めた。それからというもの、いろんな生地を出してきては、カバン作りに熱中。祖母は一日の大半をそれに費やすことになった。

唯一の難点は、使っている針をどこかに失くしてしまうことだった。「よっさん（祖母は僕をこう呼ぶ）、針がどっか行った」というので、一緒に探すも見つからず、離れ2階にある祖母の元内職部屋から数本拝借してきて『もう失くさんときや！』と手渡すのだが、また失くす。その繰り返しで、たくさんあった針はいつの間にか数本になってしまった。いったいどうしてなくなるんやろう？様子を観察していると、ハサミに持ち替える時に、針をコタツの布団に差していた。行方知らずだった針のほとんどはコタツ布団の中から見つかったのだった。

止まらない下ネタ、そして事件が発生

針仕事をしている時は、集中していて変わった行動も少なかったが、性的発言は相変わらず続いていた。脳トレ用（漢字の書き取りや、計算用）に買っていたノートは、いつの間にか日記帳に変わっていて、その日にあったことなども書かれてはいたが、卑猥（ひわい）な絵も各所に描かれていた。おまけに「稔（父）のち○ち○くさーい。」などという書き込みも… これには少し笑ってしまった。

そんなある日、驚くべき行動を目にしてしまった。父がコタツに入って横になり、テレビを見ていると、祖母がその日は紙パンツもはかず、全裸で風呂から上がってきた。恥じることなく、むしろその裸を父に見せつけるかのように、父のまわりを走り回っていたのである。半身不随で言語障害もある父は身動きがとれず「あかんあかん！」と言いながら目をそらすことしかできず、それを見てますます調子に乗る祖母。父の声を聞き、何事かと駆け付け、『あほなことやめんか！』と制止し、祖母に紙パンツをはかせた。父も相当動揺していた。当然である。80を過ぎたおばあさん（父にとっては姑）の、そんな姿は誰だって見たくない。

これは忘れられない、出来事の一つだ。そしてその時の祖母の【にやにや】した表情も今でも目に浮かぶ。何かに取り憑かれたような、異様さがあったからだ。

恋する昔乙女(おとめ)

祖母の日記には、デイサービスでの出来事も書かれていた。「今日は男性○人、女性○人だった」というのがほとんどだったが、時折、人の名前も書かれていた。仲の良い人なんやろうなぁ～ぐらいにしか思っていなかったが、ある日、デイサービスから困りごとの相談を受けた。

祖母が、デイサービスの同じ利用者の男性に恋心を抱いたようで、その人につきまとい、それが目に余るとのことだった。ノートの切れ端に書いたラブレターも見せられた。家の日記をよく読むと、その人の名前が数多く書かれていて、確かにノートを破った跡もあり、もしかして急に性的な言動が増えたのは【これか⁉】とピンときた。実際のことはわからないが、８０歳を過ぎたおばあさんが恋をするなんて、世間的に恥ずかしいと思った僕は『(あの世で)おじいさんも怒っとるで！』と言い、叱るのだが「死んだもんは知らん」と聞く耳を持たない。

何かあるたびにその人の名前を口にするし、日記を一所懸命書いていると思ったら、その人宛てのラブレター。取り上げると怒り、そのうち隠すようにもなった。隠す場所はコタツの天板の下とわかっていたので、祖母が寝ている間に取り出しては他の場所に移していたのだが、時にはそれをかいくぐり、デイサービスのカバンから見つかることもあった。いったい祖母を夢中にさせるその人はどんな人なのか？気になった僕は、またデイサービスの見学に行くことにした。

その目は釘付け。一体何歳やねん。

デイのフロアで椅子に座る祖母は、顔を出した僕には目も向けず、遠く離れた場所に座るその人の方をずっと見ていた。そばにいると行動が大胆になるからと、遠くに座らされているにもかかわらず、机に突っ伏したまま、その人を見つめていた。『いつもこんな感じですか？』とデイ職員に聞くと、苦笑い。その人がトイレに誘導されると、祖母も一緒に立ち上がり、追いかけようとして制止されていた。漫画でよく見る【目がハートマーク】そのままの状態だった。

家に帰り、真面目な顔で『あんな人のどこがええんや⁉』と問いただすも「すらっとしていい人や」と言い「もしお前に弟ができたらどうする？」などという始末。その人との間に子供ができたら、という意味らしい。(そこは弟やなく、おじさんやろ)と心の中で突っ込みつつ、祖母の恋心、忘れさせるにはどうしたらいいか？新たな悩みの種が増えて、お手上げ状態となった。

【介護者家族交流会】で相談

困った行動が相次ぎ、これまで足踏みしていた【介護者家族交流会】に初参加することにした。【認知症の人と家族の会】世話人の方に祖母の恋心についてどうしたらいいか、悩みを打ち明けたところ、開口一番「恋をするっていいことじゃないですか～」と言われ、唖然とした。こっちが思っていた答えではなかったのもあるが、その後の話は全く耳に入らないまま、会をあとにした。

世話人さんの言葉の意味に、当時は気づけなかったが、今の僕にならわかる。「誰かを想う気持ちが、祖母の毎日に張り合いをくれている」ということなのだと。

障害者居宅介護【運営指導】を受ける

↑運営指導、当日の様子 （クローバー事務所２階）

障害者の居宅介護（ヘルパー派遣）を提供する事業所・施設は、法令に基づき管轄する行政機関によって定期的に「法令等を遵守し、適切な事業所運営がされているか？」を確認されることになっています。この行政機関による確認が【運営指導】です。

９月16日（水）南丹保健所より２名の調査員が来られ、「個別支援計画に基づいた支援が実施されているか？」など、様々な項目において聞き取り・調査・確認をされました。2時間半に及ぶ【運営指導】でしたが、概ね適正に運営できているとのことでした。一部口頭による指摘を受けた点もあったので、早速改善を進めているところです。

<賛助会員>

(有)あさひ堂
(株)一谷住宅
イン･ザ･ルーム亀岡店
上段税理士事務所
(株)高木設備
たにやま鍼灸整骨院
田端輪業
(有)土佐寿司
(有)西村テレビ
三木歯科医院
みづほ電工

（五十音順）

<職員募集中>

ブランクがあっても大丈夫
子育て中の方も活躍中！
働きやすい職場です
まずはお電話を！
【お問い合わせ】
0771-88-5014 まで

編集後記

子供が減り、私が通っていた小学校は15年前に閉校しました。校舎は誰にも使われないまま当時の姿を残っています。通勤するとき、毎日その前を通るのですが、小学校がただの廃虚として残っていることに寂しさを感じていました ▼今年、地元文化祭の準備に携わることになり、地元の方々の思い出が詰まった小学校をよみがえらそうと、【小学校の思い出写真展】を企画し、その準備を進めているところです。その一環で現在の小学校の中はどうなっているのだろうと、企画を進めているメンバーと共にその内部に立ち入って文化祭で何か展示できるものがないかと視察をしてきました ▼廊下は埃だらけ、職員室にかけられたカレンダーは2011年3月で、時が止まったまま。音楽室のピアノは鍵盤が落ちてしまって使える状態ではなく、生徒が作った卒業制作は誰に見られることもなく、その場に置き去りになっていました。その一方で懐かしいものも沢山。理科の実験で使ったアルコールランプに、上皿天秤、顕微鏡は理科準備室にそのまま残っていて、音楽室には鉄琴、木琴、鼓笛隊の太鼓などが無造作に並んでいました。残念ながら後世に残そうと一所懸命に名前を刻んだ机は、どの教室にもならんでいなかったのですが、ほんの視察のつもりが、懐かしさもあって2時間を超えていました ▼せっかくなので、持ち運べそうな卒業制作と、理科で使った実験道具、鼓笛隊の楽器などを文化祭で展示することに決定。写真は色んな方に声をかけ、当時の写真を集め、それをスキャンしてパソコンに取り込み、テレビ画面でスライドショーにすることにしました ▼集まった写真や、自分の卒業アルバムを見ていると、当時の思い出が甦ってきて、ノスタルジックな気持ちに浸っている今日この頃です。 〈編集子〉